

1. 第14回フォーラムの開催 (2013. 3. 2)

第14回山のトイレフォーラムが札幌市ボランティアセンター（リンケージプラザ）で開催され、43名の参加者を迎えて行われました。

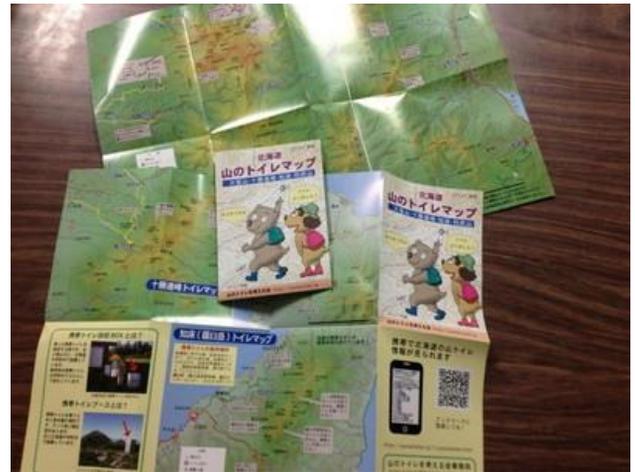
テーマは「現場に学ぶ！山のトイレの維持管理」です。

北海道のトイレ事情について下記の方から各山域毎に報告があり、意見交換しました。

- （報告1）山小屋の管理 竹本勝氏（元銀嶺荘管理人）
- （報告2）知床・羅臼岳 山口和男氏（自然環境コンサルタント）
- （報告3）利尻山 吉田敏光氏（利尻富士町）
- （報告4）黒岳トイレ 端場強実氏（上川総合振興局）
- （報告5）大雪山・山小屋 佐藤文彦氏（風の便り工房）
- （報告6）アポイ岳 車田利夫氏（アポイ岳ファックアップ）

その他、空沼岳万計山荘トイレ、夕張岳ヒュッテのトイレの報告もあり、盛りだくさんの内容となりました。

資料集、議事内容は当会のホームページに掲載されています。また資料集の入手希望の方は当会事務局にご連絡ください。一冊600円となっています。



新しい山のトイレマップ

※本マップは全労済地域貢献助成事業の助成金で作成しました。入手希望の方は当会事務局にお申込みください。団体等での使用・配布も歓迎します。無償で送付いたします。

3. 山のトイレデーの実施 (2013. 9. 8)

北海道の34箇所の登山口で新しいトイレマップやマナーガイドを配布、トイレ紙やゴミを拾う清掃登山を行いました。今回で13回目です。

参加者は88名と多くの方が活動に協力してくれました。トイレマップ613部、マナーガイド269部、マナーカード214枚、マナー袋1,965袋を配布することができました。

今回は、新しく作成したトイレマップの趣旨、トイレ紙の持ち帰りなどを登山者に呼びかけました。みなさん、好意的に受け取ってくれました。

しかし、美瑛富士避難小屋の周辺ではトイレ紙を60個回収、まだ道半ばとの印象です。今後も継続して実施していきますので、ご協力宜しくお願いします。



恵庭岳でのトイレデー



山小屋の維持管理について講話する竹本氏

2. 山のトイレマップ作成 (2013. 7. 16)

念願だった新しい山のトイレマップが完成しました。

大雪山・十勝連峰・利尻山・知床（羅臼岳）にターゲットを絞ったものです。トイレの位置、携帯トイレ回収BOXの位置、携帯トイレブースの位置、そして特にトイレの無い野営地を明示して、携帯トイレを使用するようお願いするマップとなっています。

編集・デザイン・図版作成・DTPは、北海道夏山ガイドの著者である菅原靖彦氏がボランティアで作業してくれました。

4. 黒岳バイオトイレのオガクス掻きだし作業に参加 (2013. 8. 27)

黒岳のバイオトイレは2003年9月19日に運用開始されました。オガクスを利用したバイオトイレです。

電源はソーラー発電、風力発電のほか発電機も使え、蓄電池を備えたハイブリット自家発電です。

予測最大利用者数は4室合わせて1日200回です。

2004年の本格運用開始早々から利用者数が予測値を大幅に超える日が続き、オガクスのバイオ処理が追い付かず、年5回ほどのオガクス交換を余儀なくされ、上川総合振興局はじめ関係者の大変なご苦労が続いています。

オガクス(屎尿)の掻き出し・運搬作業に当会からは8月27日に2名参加しました。

防護服やカッパは着ているのですが、屎尿まみれの重労働。10月2日にヘリで全て下界に搬出されました。

バイオトイレの改良について検討していますが、コストや実施した後の保証の担保など課題が多く、関係者は頭を悩ましています。



掻き出したオガクス(屎尿)を運搬する

6. 幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに協力 (2013. 9. 21~23)

日高山脈ファンクラブ(樋口和生会長)主催の幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに、当会の会員も参加しました。

幌尻山荘では、屋外にバイオトイレが1基、貯留式仮設トイレ2基、山荘内に貯留式1基が設置されています。

バイオトイレの電力は水力発電です。以前の発電機は故障が多発し利用できない日も多かったのですが、日本製に取替えてから順調に稼働しています。

今回は、全日程参加者19名、日帰り参加者22名の総勢41名で幌尻岳の清掃登山、排泄物汲み取り運搬作業を実施しました。人力運搬総量は420kg。全ての便槽が空になりました。

2005年開始したこの事業は年1~3回実施していますが、今後ともボランティアで継続実施する保証はできません。現在一泊1,500円の利用料を値上げして登山者に負担してもらい、ヘリ搬出費用や人件費を捻出することも検討課題として上がっているようです。



排泄物を担ぎ額平川を渡渉する

5. マスメディアで山トイレ問題をPR (2013. 8. 2~9. 2)

8月10日、FMノースウェーブに仲俣、8月24日、HBCラジオに岩村代表が出演しました。

また、8月2日、北海道新聞、そして8月4日は朝日新聞に新しいトイレマップの完成についての記事が掲載されました。さらに9月2日、北海道新聞の社説に「携帯の持参を習慣に」と題して掲載され注目を浴びました。

マスメディアでの広報は大きな効果が期待されます。これからもいろいろな機会を捉えて、PRしていきたいと考えています。

7. 山開きでマナー袋を配布 (十勝岳: 2013. 6. 16・大雪山: 6. 30)

十勝岳の山開きは4コース、大雪山山開きは3コースで実施されました。

それぞれの主催者に山のトイレマナーガイドとマナー袋を170部送付し、参加者に配布していただきました。

主催者側からも感謝され、前日の宿泊所で山のトイレマナーについて説明、情報提供を実施していただきました。

連絡先

060-8589 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学大学院農学研究院内

山のトイレを考える会 事務局 (担当: 愛甲哲也)

電話&FAX: 011-706-2452 電子メール: hokkaido@yamatoilet.jp

<http://www.yamatoilet.jp>

(ニュースレター編集)
仲俣善雄